

# 農林水産技術会議シンポジウム

## AI・IoTの先にある ～ 農林水産業の未来 ～

2017年3月21日(火)

13:30～16:30 (13:00 受付開始)

トラスティシティカンファレンス・丸の内 ROOM 2+3+4

(東京駅隣接、丸の内トラストタワーN館11階)

**対象** 生産者・消費者、地方自治体、大学、  
民間企業、研究開発法人等

**定員** 200名(先着順)

**参加費** 無料

我が国農林水産業・食品産業の発展に向けて、先進的な経営体の育成、生産・流通・販売の高度化等が求められ、新技術への期待も高まっています。とりわけ、AI(人工知能)やIoT(インターネットを媒介して様々な情報が「もの」とつながる仕組み)は、革新(イノベーション)をもたらす得る技術として、注目を集めています。

ロボット、オートメーションによる省力化、データを駆使した品質・収量の向上、消費者に新鮮、高品質を届けるフードチェーンの最適化等、様々な活用の可能性が考えられます。本シンポジウムでは、AI・IoTによって拓ける農林水産業の未来を語り合い、その実現に向けた課題を考えます。

AI・IoTに限らず、農林水産業に変革をもたらしたり、現場の切実なニーズに応えたりする多様な技術開発が求められています。現場と最先端の研究をいかにつなげ、豊かな社会を実現するか、農林水産技術会議におけるこれまでの議論の内容も紹介し、参加者の意見を聴き、今後の技術開発の促進、技術戦略の策定などに活かします。

### 13:35～14:35 基調講演

#### AI・IoTの最新動向と未来の 農林水産・食品産業への可能性

三輪 泰史 日本総研開発戦略センター  
シニアスペシャリスト

農林水産省、内閣府等の有識者委員を歴任。  
専門は、農業ビジネス戦略、農業IoT・スマート農業・  
植物工場等の先進農業技術、農産物のブランド化、日本  
農業の海外展開、1次産業を核とした地域振興等。

### 15:00～16:30 農業経営者・会場との意見交換

#### AI・IoTの先にある農林水産業の未来

三輪 泰史 日本総研開発戦略センター  
シニアスペシャリスト

丸田 洋 株式会社穂海 代表取締役  
有限会社穂海農耕 代表取締役

農林水産技術会議  
小林 芳雄 元農林水産事務次官、大日本蚕糸会会頭  
川面 克行 アサヒグループホールディング  
株式会社社友  
古口 達也 栃木県茂木町長  
坂本 廣子 相愛大学人間発達学部客員教授  
妹尾 堅一郎 一橋大学大学院商学研究科客員教授  
難波 成任 東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
松永 和紀 科学ジャーナリスト

### 14:35～14:50 技術開発の現状と今後の進め方

#### ■ AI・IoTの研究開発と実用化に向けた 政策の方向

#### ■ 技術開発と社会実装の進め方

- ・現場ニーズの収集、現場の課題の把握
- ・明確な開発目標の設定と研究開発
- ・社会実装の加速(研究成果・研究者情報の見える化等)

農林水産省より説明

14:50～15:00 休憩

# 参加者紹介



## 三輪 泰史

日本総研創発戦略センター  
シニアスペシャリスト

農林水産省、内閣府等の有識者委員を歴任。  
専門は、農業ビジネス戦略、農業IoT・スマート農業・植物工場等の先進農業技術、農産物のブランド化、日本農業の海外展開、1次産業を核とした地域振興等。



## 丸田 洋

株式会社穂海 代表取締役  
有限会社穂海農耕 代表取締役

企業のエンジニアを経て、農作業手伝いをきっかけに平成17年に農外から新規参入。  
上越市で水稻の大規模生産(125 ha)に加え、米穀の集荷・販売、農場運営コンサルティング等に取組

## 農林水産技術会議



## 小林 芳雄 (会長)

一般財団法人大日本蚕糸会会頭  
元農林水産事務次官



## 妹尾 堅一郎

一橋大学大学院商学研究科客員教授  
NPO法人産学連携推進機構理事長

内閣知的財産戦略本部専門調査会会長等、多くの委員や企業役員を歴任・兼務。ビジネスモデルと知財マネジメントに関する研究と教育に従事  
著書「技術力で勝る日本がなぜ事業で負けるのか」は流行語にもなった



## 川面 克行

アサヒグループホールディングス  
株式会社社友

民間企業の研究開発部門での経験から、コストとベネフィットを勘案した数値目標を定めた研究開発マネジメントに精通  
(社)経団連農業活性化委員、同委員会農商工連携部会長及び同企画部会長も務める



## 難波 成任

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

ファイトプラズマや植物ウイルスについて、全ゲノム解読や病原性遺伝子・抵抗性遺伝子・宿主特異性決定機構等の解明に世界に先駆け成功  
日本で初めて植物病院を設置するなど最先端の研究成果を現場に活かす取組を実践



## 古口 達也

栃木県茂木町長

中山間地で「儲かる町」実現のため、道の駅事業、有機農業(生ゴミを含む堆肥センター)、地元木材による施設建設等、福祉、文教などの町政全体をリンクさせて取り組む



## 松永 和紀

科学ジャーナリスト

食品にからむ多岐にわたる情報について、科学的根拠に基づいて分かりやすい発信に取り組む  
著書「メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学」で科学ジャーナリスト賞受賞



## 坂本 廣子

キッズキッチン協会会長  
相愛大学人間発達学部客員教授

幼児期からの食育を40年以上前から提唱し、日本の食育実践の先駆け、NHK教育テレビ「ひとりできるもん」を監修、子どもからの料理体験を進めた  
食育、介護、防災、食の村おこし、子ども博物館研究など、広く問題解決に取り組む社会派料理研究家

## 申込方法

以下の内容を明記の上、3月14日(火)までにお申し込みください。

- 氏名(ふりがな)
- 連絡先(電話番号、メールアドレス)
- 勤務先・所属団体等
- 住所

申込メールアドレス [gijutsukaigi\\_bosyu@maff.go.jp](mailto:gijutsukaigi_bosyu@maff.go.jp)

(お電話の場合は、下欄の問合せ先まで)

※ 参加希望者が定員を超えた場合には、先着順とさせていただきます。



## 問合せ先

農林水産技術会議事務局研究調整課 仙波、佐藤、佐川 電話 03-3502-7399